

●水産業

管内は、日本海の石狩湾に面し、砂浜や段丘、懸崖、岩磯が連なる変化に富んだ海岸線を有するとともに、石狩川などから運び込まれる豊富な栄養分によって、海藻類の繁茂する藻場が浅海に広がるなど、豊かな地形条件を備えています。

沿海市町村は、約72kmの海岸線を有する石狩市の1市で、令和6年の漁業生産は、数量4,888トン（全道割合0.45%）、金額2,566百万円（同0.89%）で、全道に占める割合は小さいものの、多種類の魚介類に恵まれ、石狩市の重要な産業として、地域を支える一翼を担っています。

主要な魚介類は、サケ、ニシン、ホタテガイ、ナマコですが、この4魚種で、生産額の約8割を占めており、依存度の高い漁業となっていますので、漁業関係者連携の下、資源の持続的な利用が図られるよう種苗放流や資源管理に取り組んでいます。

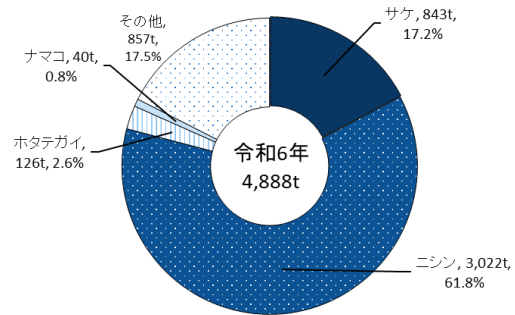
特に、ニシンについては、平成8年度からの北海道が実施した「北海道ニシン資源増大プロジェクト」の成果と漁業者の徹底した資源管理方策が相まって、今や2,000トンを超える漁業資源に成長しています。また、現在では、毎年のように、沿岸域で「ニシンの群来」も見られるようになっており、石狩市の漁村地域に、賑わいと活気をもたらしています。

さらには、春から夏にかけて、石狩、厚田区及び浜益区の3地区で、それぞれの特色ある漁業者主体の「朝市」が開催されており、都市近郊の地域特性を生かした産直事業として、さらなる発展が期待されています。

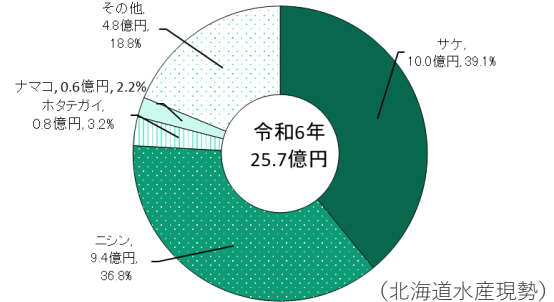
また、千歳市にある支笏湖ではヒメマス漁が行われています。ヒメマスは地元ではチップ（アイヌ語の薄い魚に由来）と呼ばれ親しまれており、他地区との差別化を図るため、令和6年6月に「支笏湖チップ」として、地域団体商標に登録され、さらなる販路拡大に取り組んでいます。

〈石狩管内の魚種別生産高〉

■数量

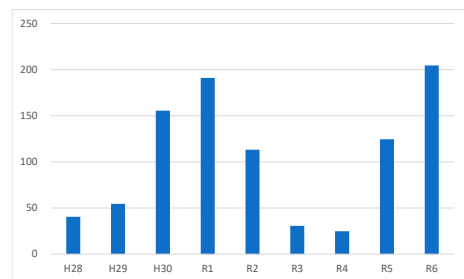


■金額



(北海道水産現勢)

〈支笏湖チップの釣獲数 (千尾)〉



(支笏湖漁協業務報告書)



サケの水揚げ (石狩地区) 10月



ヒラメ種苗放流 (浜益地区) 9月



ニシンの精子で海面が白濁
「ニシンの群来」(厚田区) H29.2.28



厚田港朝市



浜益ふるさと市場 (朝市) (浜益漁港)



支笏湖チップ